

講演の概要

地域の空洞化、近隣関係の希薄化が指摘されています。言うまでもなく子どもは家庭の力だけでは育たず、周囲の支援や助言が必要ですが、現状では地域と家庭の連携はむずかしくなっています。

若年世代の家庭と高齢家庭では価値観や生活スタイルが大きく異なる上、地域社会に対する意識も差があります。町内会や子ども会など既存の形態で「地域参加」を求めるだけでは、なかなかうまくいかないのが現状です。

一部のおとなが一方的に誘導したり、強制するのではなく、各家庭や子どもたちが主体的に関われるような新たな地域活動が求められています。そのためにもどのような方法があるのか、各地の実践例などを紹介しながら具体的に解説します。

対象

生涯学習、地域参画、民生児童福祉、青少年健全育成、市民セミナー

講師からのメッセージ

児童虐待や貧困などのニュースが連日のように報じられます。地域の空洞化や人間関係の希薄化が進み、子どもを取りまく環境は大きく変わりました。身近に助けてくれる人がいなかったり、公的な支援につなぐことができない親たちは時に子どもとの向き合い方を誤ってしまいます。本来大切にすべき子供を傷つけ、追い詰めてしまう場面も少なくありません。

一方で、適切な養教を受けられない子どもは大切な子ども時代を失うだけでなく、将来の終了や経済的自立も難しくなり、生涯に渡って影響が残る場合も少なくありません。困難を抱える親子をどうしたら救い、支えていけるのか。そのために地域ができることは何なのか。具体的な事例を踏まえながら、対応策について考えましょう。

講演の様子

